

熱海港湾エリア賑わい創出基本構想（案）



令和6年7月

熱海市

目次

- 01. 目的 3
- 02. 基本構想の位置づけと策定の流れ 4
- 03. 熱海港エリアの現況 7
- 04. 熱海港湾エリア賑わい創出 9
- 05. 海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出
 ～クルーズ船受入に向けた環境整備～【整備に向けた考え方】 12
- 06. 海辺の賑わいの創出に向けた整備
 ～回廊機能の向上及び滞留効果につながる施設整備～【整備に向けた考え方】 . . 13
- 07. 今後の整備イメージ 14

この資料における「熱海港」の範囲について

港湾法における地方港湾としての熱海港には伊豆山地区、渚・横磯地区、多賀地区が含まれるが、この資料における「熱海港」は、渚・横磯地区を対象とする。



0 1 . 目的

熱海市では、新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなつて以降、まちの賑わいは戻りつつあり、プロモーションやPR活動が功を奏し、国内、特に首都圏からの観光客数が回復してきています。

また、沿岸エリアを中心にホテル建設など民間投資による開発も活発となっており、更なる賑わいが期待されます。

賑わいの創出に関しては、熱海駅前が整備され、回遊性が高まったことが挙げられますが、熱海駅を陸の玄関口とすると、熱海の海の玄関口はまだまだ整備途上であると言えます。

海の玄関口となる熱海港湾エリアでは、これまでサンビーチや渚地区の海岸事業が進められてきましたが、渚第4工区や旅客施設の整備、水産施設の充実、和田浜エリアの整備など、海の玄関口として、今後充実させていく上での課題は山積みとなっています。

海の玄関口を豊かにし、熱海の回遊性を高めていくための整備を推進することを目的に、熱海港湾エリアの中長期的な整備の方向性について、「熱海港湾エリア賑わい創出基本構想（案）」としてとりまとめたものです。

02. 基本構想の位置づけと策定の流れ

〔上位計画〕

- ・ 熱海市総合計画
- ・ 熱海港コースタルリゾート計画
- ・ 熱海市観光基本計画
- ・ 都市計画マスタープラン
- ・ 熱海まちづくりビジョン

〔関連施策〕

- ・ 熱海市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・ 熱海市景観計画
- ・ 渚地区まちづくり推進地区計画
- ・ 熱海市シティプロモーション基本方針
- ・ 熱海市移動等円滑化基本構想
- ・ 富士箱根伊豆交流圏構想 等

熱海港湾エリア賑わい創出整備計画（案）（平成30年3月）

- ・ 国土交通省 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業(平成29年度)により、熱海港湾エリア賑わい創出検討基礎調査およびクルーズ船受け入れ環境整備基礎調査を実施。
- ・ 熱海港湾エリア賑わい創出に関して各団体よりアイデアを取りまとめたもの。

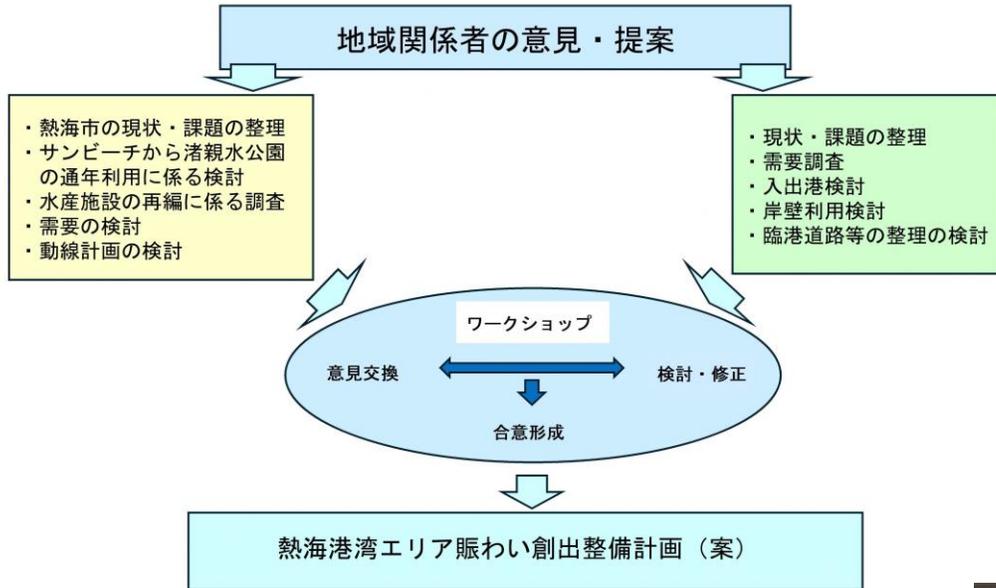
熱海港湾エリア賑わい創出基本構想（案）

海の玄関口を豊かにし、熱海の回遊性を高めていくための整備を推進することを目的に、「熱海港湾エリア賑わい創出整備計画（案）」を基に、熱海港湾エリアの中長期的な整備の方向性について、とりまとめたものです。

02. 基本構想の位置づけと策定の流れ

- ▶ 基本構想の基となっている「熱海港湾エリア賑わい創出整備計画（案）（平成30年3月）」を取りまとめるにあたり、関係団体へのヒアリングやワークショップによる、意見聴取を行い検討を実施。

◆整備計画策定の流れ



◆ワークショップメンバー

	ご所属等
会長	熱海市 市長
副会長	伊豆小型船安全協会熱海支部 支部長
副会長	熱海市観光協会連合会 会長
	熱海商工会議所 会頭 事務局長
	熱海市ホテル旅館協同組合連合会 会長
	大熱海漁業協同組合 代表理事組合長 参与
	株式会社富士急マリリゾート 取締役社長 富士急行株式会社 静岡所長
	青木建設株式会社 代表取締役社長
	株式会社スパ・マリーナ熱海 ハーバースター
	静岡県交通基盤部港湾局 港湾企画課長 港湾企画課班長
	静岡県熱海土木事務所 所長
	静岡県文化・観光部伊豆観光局 局長
	熱海市 副市長

◆ワークショップ開催状況

第1回
熱海港客船誘致委員会にてワークショップを開催
平成30年2月16日（金）13:30～16:00

第2回
熱海港客船誘致委員会にてワークショップを開催
平成30年3月15日（木）13:30～16:00



第1回



第2回

03. 熱海港エリアの現況

- ▶ コースタルリゾート計画や賑わい創出の中核として、歴史的な流れの中で船舶誘致が進行。

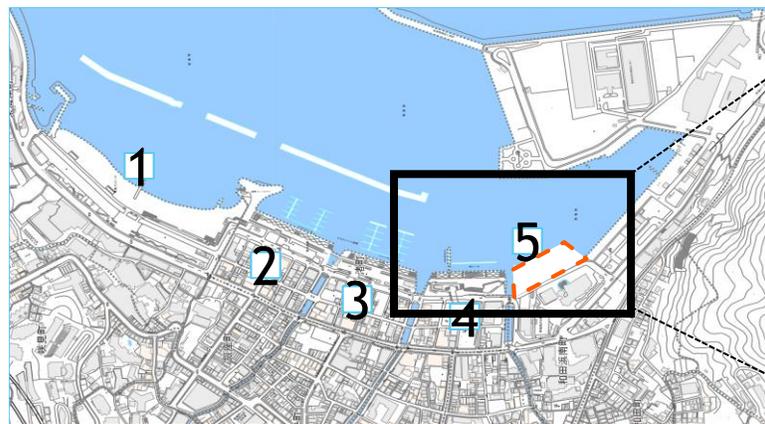
計画の経緯		
策定等年月	計画名	概略
昭和55年3月	熱海市総合計画	富士・箱根・伊豆、伊豆七島の海の玄関口として 大型船舶が接岸できる観光港の整備を推進 し、カーフェリーの航路を設置するとともに、埋立を利用した全国的な規模の会議にも応じられるような多目的利用の大集会場の建設を推進。
平成元年3月	熱海港コースタルリゾート計画調査報告書	機能配置と導線計画において、景観面及び熱海サンビーチ・船だまりとの連携に配慮した埋立地の配置を基本的な考え方として挙げている。留意事項として、景観・修景性に重視した マリーナ整備、漁業者との連携に配慮した親水交流空間の創出 を挙げている。
平成元年3月	新熱海市総合計画	観光基盤の整備において、 5,000トンクラスの大形船に対応する、港湾施設の整備 を挙げている。海岸・河川の整備において、コースタルリゾート計画を中心に、 海岸の開発、整備を推進 することを挙げている。
平成12年12月	第三次熱海市総合計画 熱海フレッシュ21 計画	船舶の乗り入れ促進において、新たな海上交通ルートの開設 を挙げている。港湾施設の充実において、観光港埋立地への 旅客船ターミナル施設の建設の誘導、定期船の発着の移設へのはたらきかけ を挙げている。
平成19年12月	熱海市観光基本計画	熱海港は、富士箱根伊豆エリアの海からの玄関として、 大型クルーズ船の誘致 や首都圏方面からの新規航路の開拓とともに、「海の駅」としての港及び周辺の整備により交流拠点としての位置付けをしていくことを挙げている。目指すべき姿を「長期滞在型の世界の保養地」としている。サンビーチの砂浜ライトアップや食を活かした魅力づくり及び夜も楽しめる街の活性化等を挙げている。
平成21年9月	熱海まちづくりビジョン	熱海観光港において、海の玄関口としての整備（ にっぽん丸寄港・フェリー寄港誘致 など）を進めることを挙げている。海岸線においては、新たな魅力の発信（オープンカフェ・フィッシャーマンズワーフ・ 海上タクシー など）と、熱海を感じるレジャー基地の充実（磯釣り、海水浴、ヨット、その他マリンスポーツなど）を挙げている。
平成23年3月	第四次熱海市総合計画	利便性の高い交通ネットワークとして 船舶の乗り入れ促進 、都市拠点の創出として渚地区・観光港周辺の開発、コースタルリゾート計画の推進などを挙げている。
平成30年3月	熱海港湾エリア賑わい創出整備計画（案） 近年のクルーズ船誘致や民間投資活動などの社会的背景・状況の変化に対応	
平成30年5月	都市計画マスタープラン	海上交通の利用促進に向けた基本構想において、海からのアクセス向上や観光振興を目的として、熱海港と東京方面を結ぶ航路の新設について検討するとともに、 クルーズ客船の誘致を推進 することを挙げている。
令和3年5月	熱海市観光基本計画2021	熱海港は、伊豆箱根エリアの海の玄関口としての可能性を有していることから、 クルーズ船、スーパーヨットの誘致 に向けたポートセールスに取り組むことを挙げている。
令和3年9月	第五次熱海市総合計画	渚第4工区、観光港遊休地等熱海港湾の整備利活用について挙げている。

03. 熱海港エリアの現況

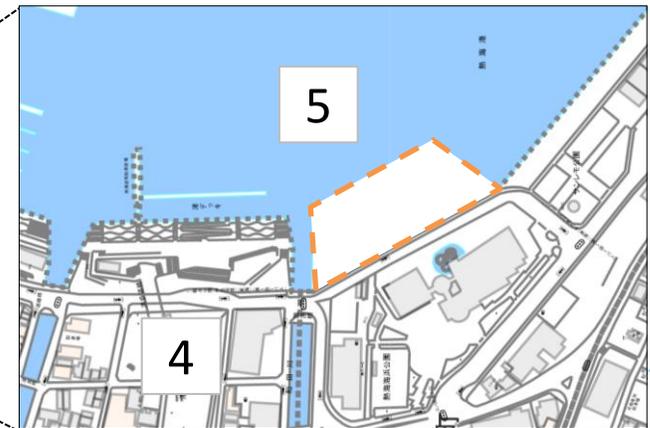
- ▶ 昭和56年度から海岸環境整備事業による人工海岸に着手し、「熱海サンビーチ」として人工海水浴場を整備。
- ▶ 熱海港コースタルリゾート計画に基づき、渚地区第1工区から第3工区まで整備済。現在、第4工区について整備中。

No.	完成時期	施設名等	内容
1	昭和61年・63年	サンビーチ第1期・第2期	海水浴場
2	平成9年3月	渚地区第1工区（スカイデッキ）	平面駐車場（49台）、ムーンテラス、マリーナ機能（第1栈橋）
3	平成12年3月	渚地区第2工区（レインボーデッキ）	観光案内所（ワカガエルステーション）、地下駐車場（92台）、マリーナ機能（第2栈橋）
4	平成21年4月	渚地区第3工区（渚デッキ）	スパマリーナ、渚歩道橋（エレベーター）、マリーナ機能（第3栈橋）
5	※整備中	渚地区第4工区	※懇話会において意見聴取

静岡県が進める「熱海港海岸環境整備事業」は、熱海港が全国有数の観光都市にあることから、**観光港の特徴を活かして臨海部に新たな賑わい空間を創出するために、コンクリート護岸と消波ブロックの親水性の乏しい海岸線を改良し、保全機能向上と親水性に配慮したコースタルリゾート構想の実現を目指し整備を進めてきている。**



熱海港湾全体



熱海港湾拡大（第3工区、第4工区予定地）

04. 熱海港湾エリア賑わい創出

熱海港湾エリアの賑わいは、港湾エリアに人が来訪し、回遊・滞留することにより創出。

- ・海の玄関口（熱海港）からクルーズ船等の来訪者が和田浜・渚町・サンビーチへの回遊・滞留。
- ・海辺への回廊機能の向上及び滞留効果につながる施設整備。

▶ 海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出

クルーズ船等受入に向けた環境整備

※寄港機会の増加の取り組み

▶ 海辺の賑わいの創出

回廊機能の向上及び滞留効果につながる整備

04. 熱海港湾エリア賑わい創出

【整備に向けた考え方（概要）】

海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出

～クルーズ船受入に向けた環境整備～

- ・スーパーヨット等の寄港地としての可能性を広げるための施設整備。
- ・観光船や離島航路、漁港機能との一体的な整備。
- ・安全で快適なアクセス（交通対策）、津波避難施設。等

海辺の賑わいの創出に向けた整備

～回廊機能の向上及び滞留効果につながる整備～

- ・海辺への回廊機能を高めるため、渋滞緩和・アクセスの容易性・快適性の向上。
- ・滞留拡大につながるフィッシャーマンズ機能等の整備。
- ・裕福層の価値感に響く世界的認証。等

05. 海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出

～クルーズ船受入に向けた環境整備～

【整備に向けた考え方】

1. クルーズ船の受入施設

将来的にはクルーズ船受入れのための旅客ターミナル導入が望ましく、にっぽん丸等2～3万GTクラスのクルーズ船（乗客定員500人程度）の受入を想定すると750㎡程度の広さを有し、クルーズ船客や釣り客の津波来襲時の避難施設の機能も兼用することが望ましいと考えられます。

駐車スペース兼緊急物資等の受入スペースに関しては、クルーズ船客500名の輸送にはバスの待機スペースが、13台分（約1200㎡程度）程必要となり、熱海港は防災拠点港であり、緊急物資等の受入スペースが必要と考えられます。

2. スーパーヨットの誘致・受け入れ施設

熱海港で想定されるスーパーヨットは全長30m程で、多くはスラスター装備であり比較的狭い水域での航行が可能なものと想定されます。クルーズ船受入時以外の一時的な着岸・上陸には-7.5m岸壁の活用も想定されます。

付帯施設として、係留施設の他、メンテナンス施設、給油施設、クラブハウス、ヘリポート等が挙げられ、これらの整備により、長期滞在へ繋がることが期待されます。

にっぽん丸の寄港風景



岸壁の将来イメージ（海釣り施設、海上タクシー、サイクリングロード等）



05. 海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出

～クルーズ船受入に向けた環境整備～

【整備に向けた考え方】

3. その他の船舶による岸壁の活用（定期航路、海上タクシー等）

観光客の立場からは、定期船と遊覧船の発着所が近くにあることが望ましく、また、海上タクシーや水陸両用バス等の導入により熱海駅から海岸エリアまで、あるいは港周辺での移動をスムーズにすることが必要と考えられます。

配置には、必要水域規模（航路幅、回頭必要範囲、泊地延長）や適応水深などが条件となります。

4. 漁港機能

港の奥部に漁港施設、魚市場、飲食施設等を導入し、地元の魚の魅力を活かせる港とすることをめざし、必要施設（漁港施設として係留施設80m程度）と駐車場、魚市場（高度衛生型荷捌所）、飲食・物販施設の配置がのぞまれます。（フィッシャーメンズ施設等）

また、遊漁・ダイビング拠点としての来訪者も多いことから、これらの船の利便性も熱海港の整備において必要な要件となります。

5. その他（臨港道路等の交通）

将来的にクルーズ船の増加や和田浜エリアへの観光客の増加により、港奥部の屈曲部（熱海後楽園ホテル脇）での大型バスの対面通行や通行車両の交通の安全性・快適性の確保が必要と考えられます。

マリンスパ熱海入口交差点の改善には、右折車線の2車線化及びペDESTリアンデッキ導入による歩車分離、熱海後楽園ホテル脇の屈曲部の改善には道路線形改良が有効になると考えられます。

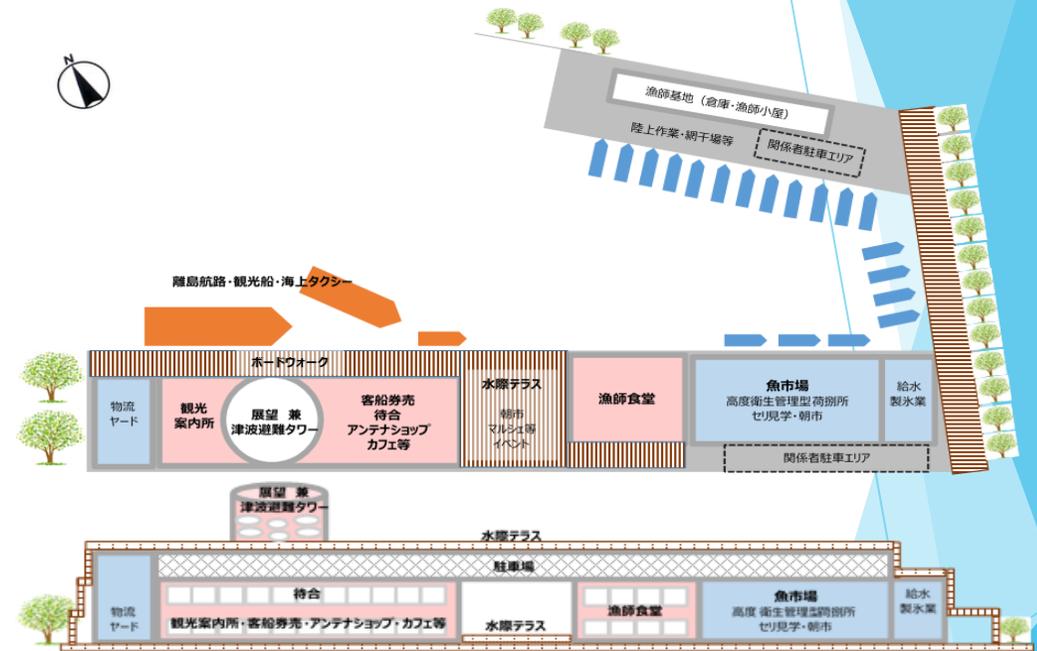
06. 海辺の賑わいの創出に向けた整備

～回廊機能の向上及び滞留効果につながる整備～

【整備に向けた考え方】

1. フィッシャーマンズウォーフ（魚市場・港食堂、観光船等の旅客施設等の複合施設）

滞留機能の核となる施設と考えられているフィッシャーマンズウォーフ（水産施設）は、臨港地区（サンレモ公園から漁協、既存の漁師食堂を含む奥部の範囲）の活用を前提に、既存の利用機能（客船待合、漁業・ダイビング基地等）の維持・拡充と新規機能（水揚げ施設、魚市場）の導入により、観光集客、水産物流通の規模拡大、地消地産（市内流通）率の向上につながる役割が期待されます。



フィッシャーマンズウォーフ（魚市場・港食堂、観光船等旅客施設等の複合施設）のイメージ

2. 道路空間の再配分

商業・生活系道路の車線を減数、歩道幅員を増加する道路空間の再配分、歩道上空間の開放化、夜間間接照明などにより、歩行者数の増加、商店街の店舗数の増加などの効果が期待されると考えられます。

07. 今後の整備イメージ

海の玄関口（熱海港）における賑わいの創出

～クルーズ船受入に向けた環境整備～

- クルーズ船やスーパーヨット誘致のための共通設備として、マリーナ等の受入施設整備を行うとともに、駐車スペース（緊急物資等受入スペースと兼用）の確保、旅客ターミナル（津波避難施設と兼用）の導入、散策・休憩施設や防災活動拠点を整備し、多様な魅力を生かした地域経済活性化を図ることによりクルーズ船等の受け入れを促進する。

海辺の賑わいの創出

～回廊機能の向上及び滞留効果につながる整備～

- 定期船と遊覧船の発着所の一体化や、海上タクシーの導入、交通環境の整備等、海路と陸路の連携により、回廊機能向上を図るとともに、滞留機能の向上のため、和田浜エリアの高度利用の促進や、フィッシャーマンズワーフの整備等による、漁船係留施設、漁業施設、魚市場、販売・飲食施設等の漁港機能の充実を図る。



07. 今後の整備イメージ

熱海港湾エリア賑わい創出基本構想

懇話会の開催

関係団体より各エリアの整備イメージについて意見聴取

“熱海港湾エリア賑わい創出基本構想（案）”を踏まえ、関係団体からの意見を聴取する**懇話会**を開催し、整備イメージについて意見聴取し、各事業の計画に反映する。

熱海港湾エリアの各事業を実施